

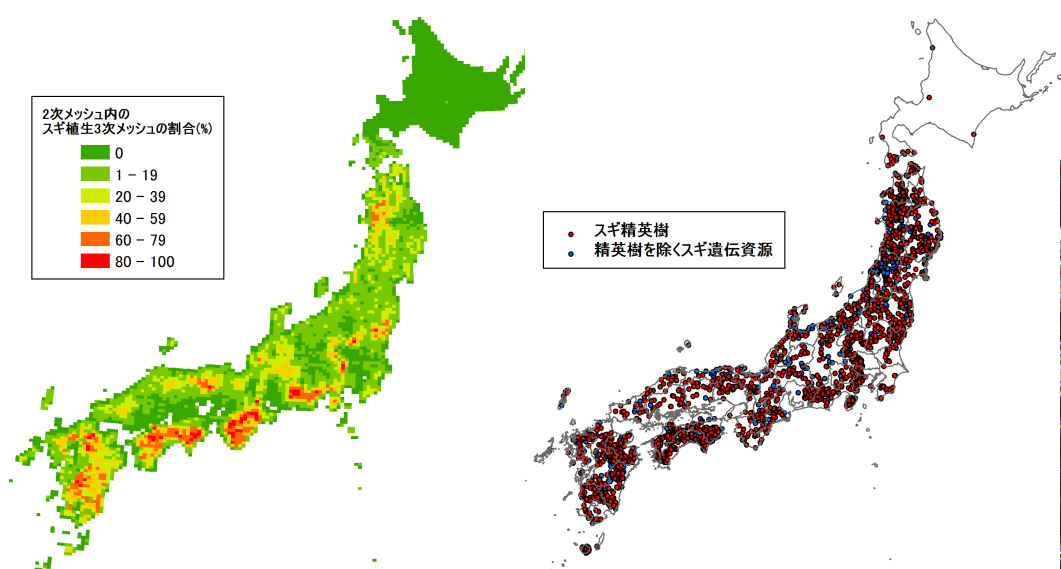
樹木の遺伝資源保全 に取り組む



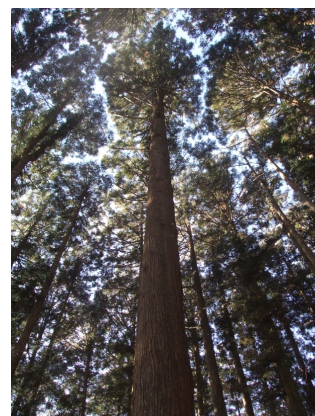
森林遺伝資源は、我々に貴重で多様な恵みをもたらします。将来にわたって多様な形での利用を可能とするため、森林遺伝資源のもつ変異を損なうことなく後世に継承していくため取り組みを行っています。

樹木の遺伝資源保全に取り組む

科学技術の進歩に伴って森林遺伝資源の利用価値はますます増大するものと考えられます。今後の利用に資するために、遺伝資源の変異を縮小させることなく保全し、後世に継承することは我々の責務です。そのための遺伝資源の保全状況の評価、つまり、森林遺伝資源全体に対してどれだけの遺伝資源が保全されているのか、それが十分か不十分なのかを評価することが必要になってきています。そこで、材の有用性が高く日本の樹木の中で遺伝資源の保全がもっとも進んでいるスギを対象として、保全状況の評価を試みを行いました。その結果、保全されているスギ遺伝資源はスギ分布域に対して地理的にみてかなり高密度に収集されており(スギが分布するとされる3次メッシュが半数以上を占める2次メッシュ(約10km²)を対象とした場合、平均5kmに1本)、また気温・降水量等の複数の環境空間的にみても、遺伝マーカーを用いた解析でも、変異が縮小している傾向はみられませんでした。今後は、他樹種でも同様の調査を行うことで保全に力を入れるべき地域の割り出しや、逆に、できる限り少ない系統で分布域を代表するような系統セットを作成するなどの方法で保全活動への貢献を考えています。



環境省の植生調査でスギが分布するとされるメッシュの割合でカテゴリー化した2次メッシュ(約10km²)ベースの地図(左図)と、約3700の精英樹(赤丸)を含むスギ遺伝資源の来歴地(右図)



スギ精英樹(高萩6号)。精英樹は遺伝資源の一部であり、成長・通直性等の形質が優れる系統。